

## 1 日常の学習状況・課題について

- (1) 授業の進むはやさについてのアンケート回答の中で、「ややはやい」と答えた生徒が68.5%だった。次いで多いのが「ややおそい」で13.5%だった。
- (2) 授業で解く問題の量に関しては、「やや多い」と答えた生徒が55.2%だった。個人作業の中では取り組み状況に差が大きく、どの層の生徒に合わせた授業を行うか検討する必要がある。ただ、文法や漢字などの小問演習は全体の分量として少ないので、今後は増やしていきたい。
- (3) 「めあて」は学習に役立っているかというアンケートについては、「やや役立っている」との回答が46.5%だった。始業前に板書しているめあてが概ね効果的であるととらえられる。
- (4) 漢字や慣用句などの基礎的な知識がほとんど無く、読解の上でかなりのハードルがある生徒が多い。

## 2 改善の計画

- (1) 前時の振り返りの時間を増やし、本時の読解に入り込みやすい授業展開にする。範読の際も、重要語句や特別な言い回しのところで止まり、内容を一つ一つ確認しながら確実に読んでいく。
- (2) 2学期の授業からは問題数を減らし、その分自分たちで考えさせる時間を設けた。限られた良問難問をじっくり深められるよう、時間配分等にも留意して実施していく予定である。
- (3) 好評であった「めあて」の活用は今後も継続していく。授業の流れの掲示は実態に即して実施していく予定である。国語は生徒の読み取り状況によって授業進度にクラス差が出やすいため、毎時間の流れや目標等はある程度柔軟に考えていきたい。
- (4) 毎回の授業で漢字テストを実施し、直しの練習まで授業内で行う。これを継続的に行い、同じ漢字を異なる問題で反復的に学習させる。

## 3 プランの評価方法

- (1) (2) (3) 学期末の授業アンケートの結果をもって評価する。
- (4) 学期ごとに漢字テストの成績の推移を見て評価する。